

《資料館便り》

平成 26 (2014) 年
10月 (特別) 号



石川町立歴史民俗資料館は、町の文化財保存と活用、町民の教育、学術及び文化の発展を目的に、昭和 49(1974) 年秋に開館しました。公的施設としては、県下のさきがけの一つです。

○「資料館便り」編集：発行 石川町立歴史民俗資料館
歴史民俗資料館長 三森孝則
〒963-7845 石川町字高田 200-2 0247 (26) 3768

『水郡線』全線開通80周年と石川「長石」!



当館 1 階の長石群

「日本三大ペグマタイト鉱物産地 石川町」として、当歴史民俗資料館 1 階の常設コーナーには、左の写真にあるような大きな石が展示されています。これは、「長石」とよばれる鉱物の結晶です。角ばったその姿は、古代ギリシャやローマの神殿に用いられた石柱の一部のようですが、実はまったく自然のままの形です。最大のもは約 1 トンの重量があります。(現在展示されている長石では、国内最大のものです。脇にあるコーヒーマグと比べてください。)

では、その「長石」と「水郡線」の結びつきとは?

水郡線は水戸と郡山を結び、1934 年 (昭和 9 年) 12 月 4 日に全線開通した鉄道です。大正時代の末には、茨城県内では一部が完成していました。しかし、石川山トンネ

「瀬戸物」の表面は、ツルツルしたガラス質になっていますが、その原料はこの長石を原料とした釉薬(うわぐすり)によるものです。つまり、この長石なしには焼き物完成しなげません。



水郡線建設に尽力した茨城県の根本正代議士顕彰会のみなさんが来館されました。

に、昨年も岐阜県多治見市の陶芸家が御二人、この長石をご覧になるため来館されています。

「石川長石」は、水郡線全線開通によってわが国の窯業を影で支える存在になったと申せましょう。(詳しくは、「石川町史 自然編」をご覧ください。)

ルと石川・里白石間の工事が難航し、明治時代以来の「悲願」であった鉄道が、ようやくこの町にやって来たのでした。

これにより、石川の人々の生活が大きく変わりました。「長石」はそれまで、東北本線矢吹駅まで、馬車などによってほそぼそと運ばれていましたが、水郡線の開通によって、直接消費地に輸送することができるようになったのです。特に、わが国最大の窯業地帯である東海地方(愛知県・岐阜県)には大量に出荷されました。

現在も、愛知県瀬戸市や岐阜県多

治見市の窯業関係者には、「石川長石」として、その品質の良さを記憶して下さる方々がいらっしゃるのです。実際



「水郡鉄道」碑・磐城石川駅前